

マイクロソフトの教育データ活用

～はじめの一步から全体構成まで～

先進的な教育データ活用事例が増えている中で、教育データの活用が難しいものにも感じられるかもしれませんが、Microsoft の Teams や Power Platform を使えば、身近なデータから簡単にデータの利活用について取り組むことができます。さらに、マイクロソフトのデータ活用関連製品を統合的に利用することで、子どもの様子を把握したり、教育活動を改善するためのデータ可視化を実現することができます。

データ可視化は身の回りから 身近に始められるデータ活用

児童生徒の心の変化 / 行動の変化を可視化する Education Insights

Teams を日常の子どもとのやりとりに活用すると、特別な仕組みがなくとも様々なデータを把握できます。Education Insights のダッシュボードを通じて、課題提出状況やクラス内の会話を可視化することが可能です。さらに、子どもの心理状態を把握する Reflect 機能や、Reading Progress における間違いやすい単語、Search Progress で検索行動の分析結果を表示することもでき、クラスの学習傾向や雰囲気を実効的に理解することができます。

組織全体/各生徒の心の健康の推移

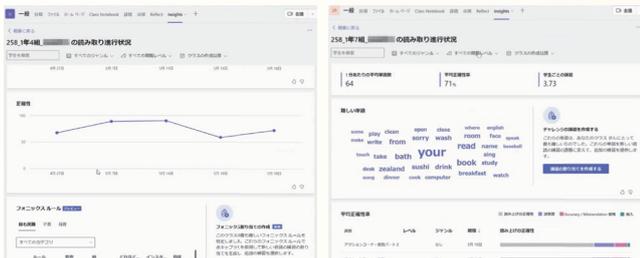


だれが、いつ、どんなアクティビティを行ったか



教員

Reading Progress のデータ



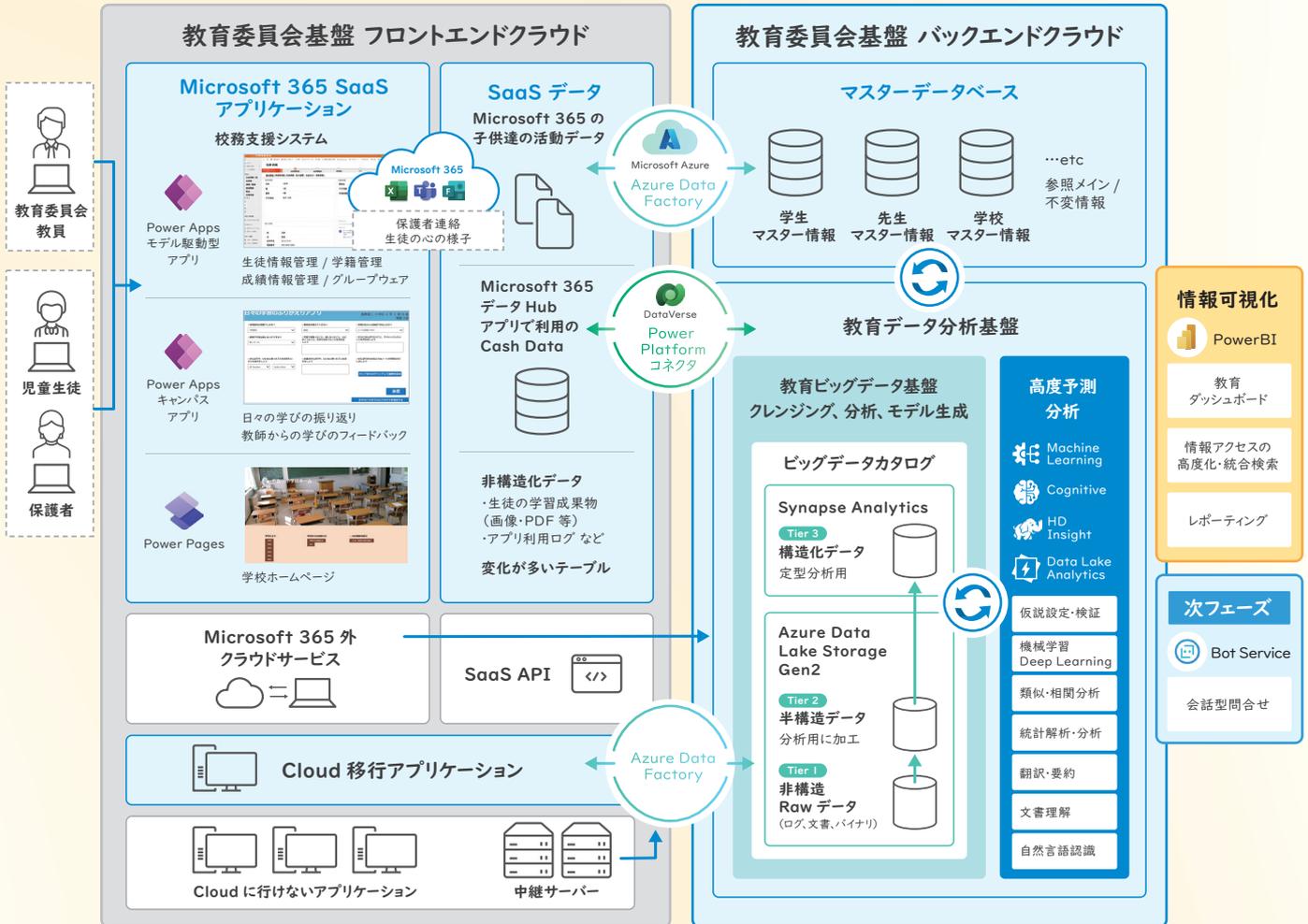
チームの活性状況



データの価値を最大限に発揮するための全体構成とは？

データの入り口から、データの蓄積場所、データの可視化まで Microsoft サービスで

データ活用するためには、データ収集用のアプリ (PowerApps)、蓄積用のクラウド基盤 (Azure)、そして可視化ツール (PowerBI) の連携が必要です。Microsoft のサービスは他社アプリとの接続用コネクタが豊富で、これによりデータを柔軟に扱うことが可能です。また、クラウド化が難しいアプリのデータもこれらのサービスを通じて連携することができます。



事例 渋谷区教育委員会 教育ダッシュボードを Power BI で構築。内製化によるスピーディな改善も

渋谷区教育委員会では、子ども一人ひとりの幸福感を向上させるために、教育データを可視化し、全学校で活用するプロジェクトを開始しました。教員が子どもを理解し、それに基づいた指導と支援を行い、子どもたちの学校生活の満足度を向上させることが目的です。ここで、Microsoft の Power BI を活用して、内製化可能なダッシュボードを開発しました。このダッシュボードでは、端末の操作ログ、学校生活のアンケート結果、心の状態データなどを一覧表示できます。さらに、Microsoft Azure の基盤上に構成した、AI のクラスタリング分析により、子どもたちの傾向を分類する機能も備えています。このダッシュボードにより、教員や管理職は、子どもたちの興味や関心、悩みを察知し、チームとして迅速に対応できるようになりました。



詳しくはこちら▶



本リーフレットについてのお問い合わせ

本リーフレットに記載された情報は制作当時 (2024 年 5 月) のものであり、閲覧される時点では、変更されている可能性があることをご承知ください。本リーフレットは情報提供のみを目的としています。Microsoft は、明示的または暗示的を問わず、本書にいかなる保証も与えるものではありません。

製品に関するお問い合わせは次のインフォメーションをご利用ください。

■インターネット ホームページ <https://www.microsoft.com/ja-jp/>

■マイクロソフト カスタマー インフォメーションセンター 0120-41-6755 (9:00 ~ 17:30 土日祝日、弊社指定休業日を除く) ※電話番号のおかけ間違いにご注意ください。

*記載されている、会社名、製品名、ロゴ等は、各社の登録商標または商標です。

*製品の仕様は、予告なく変更することがあります。予めご了承ください。



日本マイクロソフト株式会社
〒108-0075 東京都港区港南 2-16-3 品川グランドセントラルタワー